

ひかり だより

2017.10.31 No.56

発行 社会福祉法人 牧人 会
児童発達支援センター
山形ひかり学園

〒999-3103

山形県上山市金谷金ヶ瀬1111

TEL (023)672-2377

FAX (023)672-2378

E-mail yamahika@minos.ocn.ne.jp

URL <http://www.makibito.com>

フレイルームから

愛着形成

少子化なのに相談は増える?!



「少子化」と言われてから大分年月が経ちました。子どもの数は減少しているにもかかわらず、児童相談所初め、子どもに関する相談機関に持ち込まれる相談件数は増えていると言われます。子育て支援とか、子育て世代を優遇した施策も多く耳にするなか、子育て世代も大きなストレスを抱え、その子たちも危機にさらされている面もあるのでしょうか。

図 14

先日、福井大学の友田先生の講演を聞く機会がありました。先生は愛着形成のの障がいや脳の発育に及ぼす影響を科学的に実証する研究をされています。症例や予測からのお話でなく、脳から放出される物質を突き止め、その影響により、私たちが先天的なものと考えていた、知的な障がいや多動性行動障がいをも引き起こしているという衝撃的なものでした。そこで私たちは愛着障がいを引き起こさないために先生がお話しされた3つのことを今一度確認したいものです。



親は子どもの安全基地

愛着の三要素

- ① 目と目で見合う。(スマホをずっと見ている)
- ② 手と手で触れあう。(感覚的な刺激をすること)
- ③ 子どもに微笑む。(微笑まないのは親のメンタルヘルスが心配)

愛着はボンドみたいなもので、うまく愛着形成することで親が子どもにとって安定した安全基地、港になるわけです。船出していく子どもに何かあったときはいつでも一時避難できる安全基地となってあげたいものです。

